

JR連合 政策News

第241号

2013年10月16日

山口・島根豪雨による JR西日本山口線・山陰線の被災状況を視察！

～日夜復旧作業に懸命に取り組む多くの組合員を激励～

2013年7月28日に発生した「山口・島根豪雨」により、JR西日本の山口線および山陰線で計102カ所に亘り、築堤崩壊、道床流出、土砂流入、橋梁流出などの甚大な被害が生じた。現在復旧を行っているが、現在においても、山口線地福駅～益田駅間、山陰線益田駅～奈古駅が不通となっており、特に大規模な土石流が発生した山口線白井トンネル付近（船平山駅～津和野駅間）では、大量の土砂がトンネルを塞ぐなどの被害が出ており、現時点復旧の見込みは立っていない。



そうした中、JR連合（松岡会長、上村企画部長）、JR西労組（須藤副委員長、松原業務部長、内田賃金対策部長）は、10月10日、被災現場を訪れるとともに、復旧被災山口鉄道部山口施設管理センター、同山口電気管理センターおよび下関総合車両所新山口支所等を訪問し、復旧作業に懸命に取り組む組合員を激励した。

7月28日に発生した当該豪雨は、山口市および津和野町で観測史上最大雨量を記録し、8月15日には政府は「激甚災害」に指定している。

今回被害を受けた箇所は、隣接する山からの土砂流入、河川氾濫や土石流により被災しており、未だ二次災害の危険性が高く、復旧作業は困難を極めている。とりわけ、阿武川の河川氾濫および土石流によって被災した地福駅～津和野駅間では、行政による河岸工事とあわせ大規模な土木工事が必至であり、現時点復旧見通しは立っていない。

現在、不通過線では中国JRバスによる代行輸送バスが運行されているが、とりわけ山口線はSL「やまぐち」号（新山口駅～津和野駅間）を季節運行する観光路線であり、津和野・萩をはじめとする観光地から早期復旧の声が高まっている。

今回の被災路線の復旧にあたっては、現行の「鉄道軌道整備法」の助成対象外となっているが、多発する自然災害による鉄道路線の被災を踏まえ、JR連合は引き続き適用条件の緩和を求めるなど、早期復旧に資する取り組みを展開していく。

以上